

文学部教職課程

教授 佐藤 敬子

教員採用試験はここ数年全国的に、倍率が低くなっています。これは、大量採用時代の先生が退職時期となり、その分採用数が増加したことと、民間企業の求人倍率が1.83倍（2020年3月卒業予定の大卒）という求人意欲の高まりにより、教員試験の受験者が減少したことなどによります。しかし、採用数は、すでにピークを過ぎ、都市部から順に減少傾向に入ってきています。

今後は、児童・生徒数の減少に伴い、さらに採用数の大幅減少が予想されています。

また、政府の「働き方改革」の推進により勤務時間や仕事内容も少しずつ解決されつつあることから、教員志望者も増加することが考えられます。これから教師を目指す皆さんにとっては競争率が高くなっていくと考えられます。一方で小学校における外国語やプログラミング教育の導入により教育現場では子どもに求められる「学力」の質も大きく変わろうとしており、これからの教員に求められる能力はこれまで以上に「知識」の量ではなく、「思考力」や「コミュニケーション能力」が重視されます。

長年、文部科学省の教員研修の講師として全国の管理職や教員の指導をしています。そこで語られる「求められる教師像」はみな同じです。

知識や情報を伝達するだけの教員は求められず、教育課題に深く踏み込んで理解している人物、あるいは理解しようとする人物を求めるようになってきています。

生涯の仕事として「教師」を目指し、大学で教職課程を履修し努力を重ねてきた皆さんが、夢を現実にして、一人でも多く教壇に立つことができるよう今、何をすべきか、どのような勉強法が効果的であるかをまとめました。良くも悪くも努力は結果に出ます。

将来の自分の姿をイメージし早めに準備し中身のある勉強方法を身に付けましょう。

1. 教員採用試験の傾向

(1) 人物評価と実践力が第一

近年の教員採用試験の最も大きな傾向は、面接試験などにより人物評価と実践力をより重視する流れにあることです。面接試験はすべての県市で実施され、多くの自治体が異なる形式で2回以上行っています。また、個人面接や集団面接以外に、集団討論（グループディスカッション）、模擬授業、場面指導などの人物評価、実践力を問う口頭試問がほとんどの自治体で実施され重視されています。

配点も、人物評価に関する試験は、筆記試験の1.5倍から2倍の配点があります。

さらに、筆記試験の得点は最終試験には反映しない県市が65県市中21県市に上ります。つまり、筆記試験で1次試験を突破することは必要条件ですが、面接試験等で高い評価が得られなければ、最終的に合格することは難しい状況になっています。

従来は分かりにくかった人物評価の判定基準も公開する県市が増えています。

(2) 「専門」より「総合力」

小学校の教科の改編から募集区分では校種をまたぐ一括募集や、併願制度を設ける自治体が増えています。中学・高校の一括募集や、小・中学校の併願を認めるケースなどです。また、社会人や講師経験者、前年度の1次合格者等に対する一部試験免除や特別選考が増加しており、多くが1次試験の「教職・一般教養」などを免除する制度です。最近では、大量採用を行っている自治体を中心に、他県市の会場で試験を実施する県市が増えています。とくに採用の少ない県を受験する人は地元採用とあわせ、受験機会を検討することも必要です。

公立学校の教員採用試験は全国47都道府県と20の政令指定都市の教育委員会が毎年実施するもので、ほとんどの都道府県、政令指定都市では一次試験で「一般教養」や教育職に関わる「教職教養」、教科の専門性を見られ、二次試験以降で「人間性」や「教員としての資質、適性」を見られます。

したがって、出題範囲もかなり広いため高校や大学受験とは違い、直前に猛勉強してパスするということは不可能です。早い段階で少なくとも過去5年分ぐらいの出題問題を実際に解き、出題分野やレベルを分析しましょう。

教員採用試験まではあっという間です。

一方で通常の授業やサークル活動、アルバイトやボランティア活動など時間を費やすこともたくさんある中で、教員採用試験に挑戦しようと思うのであれば、よほど効率のよい時間の使い方をしなくてはなりません。

中には一般公務員や民間企業の受験を同時に考えている学生もいるかもしれませんが、勉強の中身も試験時期も異なります。仕事内容の違いや試験内容についてはキャリア支援センターが主催する説明会に出席するなどして、予め内容を把握しましょう。

自分の適性やこれまで積み重ねた勉強の量などを考慮して、ほんとうに自分が何を望み、何を優先すべきかを吟味し、早い段階で自分の希望進路を大筋で決定する必要があります。

(3) 自分に合った計画を立て、習慣化する

まず、教員採用試験までにどんな分野を勉強しなければならないのかノートに書き、そのためにはどんなタイムスケジュールを組まなければならないか計画を立てます。

可視化することにより、具体的な準備がしやすくなります。

3年次後期までにはアルバイトなども整理して、勉強に集中できる場所と時間を確保しましょう。難関である教員採用試験をパスするためには、他の活動をしながら片手間の勉強では通用しません。授業中も採用試験に関わる内容はとくに集中して能動的に受け、日頃解いている問題などで理解しづらかったところを先生に質問するなど、こまめに勉強量を増やしましょう。長期的な勉強には計画が大事ですが、その計画を成し遂げるためには習慣化が最も重要です。

2. 教員採用試験受験までの準備

(1) 2年生～3年生

①前年度の要項をチェックする

まず、教員採用試験の中身を知ることです。受験自治体の前年度要項を入手して、求める教師像や試験内容、日程や必要書類などの情報から全体像と留意点を確認しよう。

キャリア支援センターが年に2回実施する「教員採用試験説明会」に参加しましょう。

②過去問題を分析する

試験勉強の初めにすべきことは、数年間の過去問題を入手して、自治体によって異なる出題範囲や傾向を確認することです。その範囲内を、出題頻度の高い順に効率的に勉強する計画を立てましょう。

③新聞の教育記事をチェックする

人物重視の選考では、教育に対する考えの深さが問われます。日頃から教育に関わるニュースや教育専門紙の情報をチェックしてファイルしていきましょう。コメントを書けば自分の考えも深まります。毎日、新聞を読んでいる人が合格することは難しいでしょう。

④現場体験を積極的に積む

ゼミの学習やボランティアなど、教育にも関係する行事に積極的に参加しましょう。

課題意識を持って、教育課題や子どもの実態、実践の仕方など、学校の様子を見ながら、自分なりの考えを深めることが大切です。

(2) 3年生秋～

①問題集を繰り返し解く

教職教養は過去問題集を、専門教養は入試問題集などを活用して、繰り返し問題を解くことが必要です。苦手分野は早めにクリアしましょう。試験に出る範囲に絞って勉強することがポイントです。

②時事問題を毎日チェックし、評論する

この時期には、世界、日本、地域、教育界のニュースに敏感になっていることと思います。自分なりの考えを新聞社等に投稿し文章力と表現力に磨きをかけます。

日々、時事問題に関心を持ち、自分がどう考えるのかまでをしっかりと文章化できるようにすることが何より必要です。

③面接や討論など模擬練習を行う

面接や討論、模擬授業などは場数を踏むことで上達します。仲間を集めて、模擬練習を繰り返しましょう。ただし、きちんとした指導者の下でなければいくら時間をかけても無駄になってしまいます。指導主事経験者や専門のスキルを持った先生のもとで練習し、改善点を整理できるノートをつくりましょう。模擬授業の練習やディスカッションの練習は一人では準備できませんから、キャリア支援センターに予約を入れて専門家の指導を受けましょう。

3. 一次試験対策

(1) 一般教養

一般教養は幅広い分野から、「基本的な内容」が出題されます。出題科目は国語、英語、音楽、美術、倫理、保健体育といった人文科学系、歴史、地理、政治、経済、時事問題といった社会科学系、数学、物理、化学、生物、地学、環境・科学といった自然科学系科目に大別できます。最近の傾向としては、時事問題を出題する自治体が増えていることが挙げられます。環境問題、情報・ITC、国際紛争、国際経済、医療・福祉、科学、スポーツといったジャンルが頻出です。8割以上の自治体が出題しています。一般教養の出題範囲はとても広く、全ての分野をくまなく勉強するには膨大な時間がかかります。しかし、中学校レベルの「社会」「理科」「数学」が中心で、今まで勉強してきた内容なので日頃から疑問に感じたことはそのままにせず中学校や高校の教科書で復習することが大切です。また、県独自の問題（ご当地問題）が出題されることもあります。県によって多少、出題項目は変わりますが参考までにポイントを示します。

教科の対策は、基礎的な分野を広く浅く学習することが一番のポイントです。すべての教科に対応するのは負担が大きいため、苦手な教科や実技教科から重点的に学習するのが効率的です。大学受験の基礎的な参考書や問題集で一通り復習するのも一つの方法です。

国語：OECD（経済協力開発機構）の調査で日本の高校生の読解力が15位という低下を示していました。国語はあらゆる教科の理解に必要なものです。現代文読解はもちろん、漢字（読み取り、書き取り、四字熟語）、ことば（敬語、文法）、鑑賞（詩、短歌、俳句）、などの出題には日頃から新聞を読み、読書など長文になれることが大切です。

英語：熟語・文法、読解（英会話、英文）、表現・作文（短文完成）単語の意味、アクセント、活用を問う問題や、完了形、仮定法、関係代名詞、有名な熟語、書き換え問題が頻出。会話文は空欄補充、ことわざは空欄補充だけでなく、意味を説明する問題も出題されています。

歴史：日本史（江戸時代、明治時代）、世界史（ピューリタン革命、名誉革命、ルネサンス）、第2次世界大戦、現代史（サンフランシスコ平和条約～）、歴史上の人物と業績。画像を見て答える問題が多いので単に文字の暗記でなく多角的な学習をしましょう。近世、現代の政治についてはかなりの頻度で出題されています。

地理：日本と世界の地形・気候区分に関する問題が頻出です。多くは地理だけでなく歴史や時事問題との関連を出題しています。

政治：国会、内閣、国際政治に関わる法律や環境問題、最近ではSDGsがキーワードですから必ず押さえましょう。PKO、NGO、NPO、ODAをキーワードとした国際連合と国際機関、冷戦・核軍縮についての問題が見られます。少子高齢化、人口減少対策についても熟知しておくことが大切です。

経済：市場経済（流通、物価、景気変動）、金融（日銀）、財政・税、国民経済（経済成長、戦後経済）、国際経済（円高・円安、国際経済機構、地域経済統合）、完全失業率経済活動、為替相場、市場、景気動向などの経済の仕組みに関わる出題があります。

数学：数の計算、式の計算、方程式・不等式、関数、図形、確率・統計、数列などの分野から平面や空間図形における角度、辺の長さ、面積・体積などを求める問題、順列、組合せなどが多く出題されています。公式をおさえた上で数多くの問題にあたり、解法を身に付けておきましょう。

理科：「物理」では、力、いろいろな運動、エネルギー、波動（ドップラー効果）、回路。「化学」では、物質の構造、物質の状態、物質の変化、物質の性質。「生物」では生物体の構成（細胞、組織）、生殖と発生、代謝（光合成、呼吸）、遺伝、恒常性と調節（ホルモン）、食物連鎖、顕微鏡の使い方。「地学」では、地震と火山、大気と海洋（気象、海流）、地球と宇宙（月、太陽、自転）などが出題されました。

倫理：出題する自治体は少ないものの、出題傾向としては、儒教、仏教、イスラム教などの東洋の思想、日本の各時代における思想について問われることがあります。

美術：日本美術史についての出題が多く、奈良、平安、鎌倉、室町、安土桃山、江戸、明治、大正までがよく問われます。資料・絵画から画家・彫刻家名と作品名、流派の名称を答える問題が多く、西洋美術史については、各時代の文化についての特徴を問う問題が出題されました。

音楽：近年、出題が多くありませんが、作曲家と作品の組み合わせ問題が頻出のため、セットにして覚えておく必要があります。また、自治体によっては、示された音譜の作曲者を問う問題や日本の伝統音楽などについての問題もあります。

情報：毎年、かなりの頻度で出題されます。情報社会におけるICTの活用も情報モラル、メディアリテラシーに関する用語やその意味を問う問題は必ず問われます。

環境：環境汚染や環境破壊、環境保全についての出題が多いです。ごみの分別収集、家電リサイクル法、地球温暖化、酸性雨、砂漠化、森林破壊、オゾン層の破壊の原因について。SDGsは必ず理解しておきましょう。

社会時事：国内・国際情勢、新法、文化、地元地域の地誌（歴史・地理、県政、人物）、世界遺産ニュースを題材として広範囲にわたって出題されています。政治・経済分野の重大な出来事はもとより、生活に身近な新法・改正法が頻出していています。近年では、少子・高齢化問題、裁判員制度、児童虐待防止法などが出題されています。日頃から新聞やニュースなどで新しい情報を入手し、社会に起きていることに常にアンテナを高くはり、自分の生活とどう関わっていくかを考えることが必要です。

ご当地問題：地域や地方ならではの問題を出題する自治体があります。

地理、歴史、郷土出身の著名人、郷土料理、特産物、伝統工芸品、施策など多様な出題があります。

(2) 教職教養

近年の教職教養は、頻度の高い順に(1)いじめや不登校など教育課題に対する様々な取り組みや具体的な指導事例(2)教育改革に関連する答申・報告から新学習指導要領の意味するものまで深く(3)教育原理、教育心理、教育法規、教育史から出題されます。

教育法規や教育原理、教育心理などは覚える内容が多く、事前にかかなりの勉強をしておく必要があります。

とくに「生徒指導論」の分野は出題のない年はなく出題数も一番多いので「生徒指導提要」と時事問題は徹底して取り組む必要があります。

教育原理	教育課程	教育課程・学習指導要領・教育課程の編成・学習指導要領の変遷・学習指導要領の内容など
	人権教育	人権擁護・心身障害児者・同和教育・児童福祉・平等教育など
	生徒指導・進路指導	生徒指導・生活指導・進路指導・キャリア教育など
	教育方法	学習形態と指導法・情報教育など
	社会教育・生涯学習	社会教育のしくみ・社会教育施設・生涯学習など
	道德教育・特別活動	道德教育・特別の教科 道德・特別活動など
	特別支援教育	特別支援教育・支援制度など
	教育時事	教育改革・最新教育行政・教育界の動向など
教育法規	教育に関する法規・教育行政・財政・地方教育行政	
教育心理	学習・発達・適応・教育評価・人格・発達障害・心理療法・カウンセリングなど	
資料問題	中教審答申・文科省通知など	
ご当地問題	都道府県の教育行政・教育課題など	
資料問題	中教審答申・文科省通知など	

4. 二次試験対策

一次試験では学力試験を行って受験者の教養や専門性を見ます。そこで採用人数のほぼ半分は合格します。二次試験ではさらに、受験者の人間性や教員としての適性を見ます。つまり、「この人は来年の4月から正式採用の教員として仕事を任せてもよい人材なのか」を見極める試験なのです。そのため面接や論文、模擬授業等を通して教員としての適性・人間性を評価します。

二次試験において、試験官が受験者とじっくり話してその人の人間性を理解する、などという時間はありません。限られた時間の中である基準を設けて教員としての適性を見ます。

その基準が面接・論文・模擬授業・集団討論等です。

とくに面接では面接官が、はじめの9秒でその人の印象を決めてしまうと言います。

二次試験は、人対人の試験であるため、一人では練習できません。面接の練習には面接官が必要ですし、論文も添削してくれる人、模擬授業・集団討論も相手が必要です。

そのため、練習をともにしてくれる友だちが必要です。教員採用試験を受けるに当たっては、二次試験対策と一緒に頑張れる友人・知り合いを見つけておくことも大切です。

人前で自分の考えをきちんと整理して時間内にわかりやすく相手に伝えることができるようになるためには相応の練習と慣れが必要です。日頃から、ことばで相手に思いを伝える習慣をつけることが大切です。

5. 論文対策

教員採用試験には、筆記試験ばかりでなく、面接試験、適性試験、論作文試験、と様々な試験を課し、あらゆる角度から受験生を評価します。「筆記による面接試験」ともいわれ、教師としての資質・適性、指導力、教職への情熱などが評価されます。

出題内容は、「教育課題への対応」「学習・生活指導の在り方」「教師に求められる資質」など指定テーマについて、受験者の考えや実践を記述させる形式が多くなっています。

一部の県市では資料の読解や、抽象的なテーマの出題などもあります。知識だけでなく、論理や表現力、教職への熱意など、文章から読み取れる総合的な人物評価が判定されます。出題テーマは「教育論」「教師論」「生徒指導・学習指導」「抽象題」などに大別されます。具体的には、「ICT機器の活用について」「プログラミング教育の導入について」「基礎・基本の定着」「分かる授業」「個性を生かした教育」「心の教育」など教育改革に関するテーマが毎年課されています。制限字数は800～2000字、時間は40～90分といったところが一般です。

受験生の思考力や表現力のみならず、人間性を把握しようとするのが論作文試験です。

とくに近年は、人物重視の傾向が顕著となり、今後もこの傾向は続くものと予想されます。従って論作文が採用試験の中でも重要視されることは明らかです。

このような状況から教員採用試験に合格するための論作文の作成について、いくつかの攻略法をまとめたので参考にしてください。

(1) 出題傾向と対策

最も重要なことは、教育課題を評論家的に解説するのではなく、教師の立場に立って、授業など具体的な実践を中心に論述することです。採用者側は、現場で実践する教師を求めています。教員採用試験で出題される論作文のテーマは、およそ4つに分けることができます。あらゆるテーマに対応できるよう準備しておく必要があります。

テーマ1：教育論	
内 容	教育の目的、今後望まれる教育の在り方や教育課題など、現代の教育に求められていることについて問うテーマです。
ポイント	<ul style="list-style-type: none">・教育改革の流れをつかんでおきましょう。・時事的教養が必要となるため、中央教育審議会答申や文部科学省報告等には必ず目を通し、教育に関して自分なりの見解をまとめておきましょう。・新聞を必ず読むこと、ニュースにも敏感になりましょう。
テーマ2：教師論	
内 容	主に3つに分けられる。 <ul style="list-style-type: none">・目指す教師像を問うテーマです。・教師としての使命感を問うテーマです。・教師の資質・能力を問うテーマです。
ポイント	<ul style="list-style-type: none">・教師像については、自分本位の教師像を述べるのではなく、子どもが求める教師、保護者が求める教師、社会が求める教師など様々な視点から論述できることが大切です。目指す教師像にどのように努力をして近づいていくか等を論述しましょう。・使命感については、現代の学校教育の状況を把握し、現在の教育における教師の使命とは何かなどを論じましょう。・中央教育審議会答申「新しい時代の義務教育を創造する」に示された「優れた教師の条件」等を参考にして、教師にどのような資質・能力が必要なのかを自分なりに考えてみましょう。・各県、自治体が求める「教師像」はホームページなどでチェックし、項目ごとにその具体例を述べるができるよう熟知しておきましょう。

テーマ3：生徒指導・学習指導	
内 容	主に2つに分けられる。 ・教育の内容・目標に関するテーマです。 ・教育問題・学校教育の在り方に関するテーマです。
ポイント	・教育の内容・目標に関するテーマについては、自分の担当教科あるいは学級担任として具体的にどのように取り組んでいくかを論述しましょう。 ・教育問題・学校教育の在り方に関するテーマについては、教育実習の経験の他、新聞・雑誌等を利用して教育現場の情報を収集し、自分なりの意見・対処法をまとめておきましょう。とくに、保護者や外部の方々への対応など、教師としてのマナーに関するテーマも近年では多く課されています。
テーマ4：抽象題	
内 容	教育には直接関係しない語句や事象をテーマとして設定し、社会人としての常識や教師としての教育観、受験者のこれまでに形成された人格や感性などを評価します。テーマとしては、「こころ」、「よろこび」、「輪」など様々ですが、最終的には教育に関連のある内容にしましょう。
ポイント	・例えば、「ことば」というテーマであれば「人を朗らかにさせることば」「思い出に残ることば」など論述しやすいテーマに加工しましょう。 ・日頃から新聞の論説や雑誌のコラムなどを読む習慣をつけ、自分でも新聞の投稿欄に積極的に文を載せるなどして自信をつけるとよいでしょう。

①時間配分に注意して書こう

まず、与えられた課題の意味を正確に把握し、主題（中心とする内容）を決定することが、論作文を書く出発点です。その柱に沿って、自分の主張を展開する必要があります。そのためには、次の点を頭に入れて、時間配分に注意しながら、手際よく書くことです。

- ・課題の意味を把握する。
- ・最初の短い時間（5～10分）で自分の主張することを決める（論点を絞る）。
- ・文章全体の構成を考える。

②表記、表現上の留意事項を押さえて書こう

誤字・脱字や文字の乱れは、論作文の内容を評価される前に、教師として不適格と判断されてしまいます。教職への情熱を行間ににじませられるよう、誠意をもって丁寧に書く習慣をつけましょう。美しい字を書けるだけで読む側の評価が上がります。

○原稿用紙の正しい使い方ができているか

- ・ひとマス空けて書き出す
- ・改行などのルール
- ・「」の終わりには句読点を打たない 等

○文体が統一されているか

- ・常体「である」「だ。」と敬体「です」「ます。」の混用をしない
- ・敬語（丁寧語・尊敬語・謙譲語）が正しく使えるか

○句読点、カッコは適切な位置に書かれているか

- ・一文が長い場合、区切る場所が適切か
- ・会話は「」に入っているか

- 仮名と漢字が適切に使われているか
 - ・「こと、ため、ところ、もの、わけ、うえ」などは仮名書き
 - ・「子ども」(子供はNG)
- 文法上正しい文章になっているか
 - ・主語と述語の呼応
 - ・修飾語と被修飾語がはなれすぎていないか
 - ・助詞「て、に、を、は」の正しい使い方
 - ・動詞の態(受動態能動態)
 - ・語句を正しい意味で用いているか
- 簡潔でわかりやすい文になっているか
 - ・一文が長すぎないか
 - ・同じ語句または同意の語句の繰り返しはないか
 - ・回りくどい表現はないか
 - ・修飾語が長すぎないか
- 教育用語を正確に用いているか
 - ・「児童」「生徒」「学生」「保護者」等(父兄などはNG)
- 俗語・流行語を用いていないか
 - ・カタカナ言葉はなるべく使わない
 - ・略して記さない
- 字数は適当であるか
 - ・指定された字数の9割は埋めるのが無難

③キャリア支援センターの専門家に相談する

論作文の受験対策は、多くの文を読み、自分自身で実際に論作文を書いてみるのが最も効果的な方法です。そのため、時間を設定して実際に原稿用紙に論作文を書くことが大切です。日頃パソコンを使用していることが多いと簡単な漢字でも咄嗟に思い出さないことがあります。鉛筆で書く練習が大切です。

「文章を書くことが得意」という人も、論作文対策は必要です。教員採用試験の論文には、学術論文や大学のレポートとは異なり、「序論」「本論」「結論」などの構成で書くこと、教職への強い決意を示すことなどが望ましいとされています。

自分の考えをしっかり表明する必要がありますが、いわゆる「論説」は求められていません。また、試験官に分かりやすい文章を書く練習も必要です。自分の考えと文章を練り直すためにも、同じテーマで繰り返し書き、誰かに添削してもらいましょう。添削者は、校長経験者やキャリア支援センターの専門家に見てもらいましょう。

6. 面接試験対策

(1) 出題傾向

個人と集団の2つの形式の面接があり、どちらも、回答した内容だけでなく、印象や所作、応対の仕方など人物の全体像が評価の対象になります。試験官の中心は、行政幹部(指導主事)や各校種の校長先生です。

ほとんどの面接が、試験官の質問に答える形式で行われます。その内容は、自己PRや志望動機、教職教養や教育時事などに関する内容です。近年は特に、具体的な指導の在り方や場面对応に関する質問が増加しています。

(2) 対策

面接官が評価する一番のポイントは、「自分と同じ職場で働ける人物かどうか」という視点です。教室で子どもたちにしっかり指導できるか、職員室で協調して働けるかなど、具体的にイメージして評価します。表現力や対応力、誠実さや教職への情熱などを質疑応答のキャッチボールの中で伝えていく必要があります。

形式面では、短い時間で要点から簡潔に話す練習をする必要があります。

30秒、1分、3分程度の単位で話をまとめることは意外に難しく、訓練が必要です。

入室や着席時の所作、話し方や態度なども印象に大きく左右するので、練習で専門家にチェックしてもらいましょう。

内容面では、常日頃から教育課題や実践について、考えを巡らせることが必要です。知識を問う質問以外、正解はないため、どれだけ教師の立場に立って、誠実に考えを深めているのかが評価されます。回答ノートなどをつくって自分の考えを整理することが有効です。

①教師としての資質・能力を知りたい

教員の資質・能力の向上を前提に、近年、ますます「人物重視」の傾向が強まっています。実践的指導力やコミュニケーション能力を見るために、学習活動や生徒指導上のさまざまな場面を想定した場面指導や、実践的な指導力を見る模擬授業を導入するところが増えてきました。面接官は「態度・礼儀」「身だしなみ」「話し方」「応答の内容」などから、積極性・意欲、表現力、判断力、教育観、資質を評価します。自治体が公表する「評価の観点や基準」は必ずチェックしておきましょう。

教師としての資質・能力について、文部科学省が中央教育審議会答申において、次のような条件を例示していますので、参考にしてください。

「優れた教師の条件」

1. 教職に対する強い情熱	教師の仕事に対する使命感や誇り、子どもに対する愛情や責任感など
2. 教育の専門家としての確かな力量	子ども理解力、児童・生徒指導力、集団指導の力、学級作りの力、学習指導・授業作りの力、教材解釈の力など
3. 総合的な人間力	豊かな人間性や社会性、常識と教養、礼儀作法をはじめ対人関係、コミュニケーション能力などの人格的資質、教職員全体と同僚として協力していくこと

※中央教育審議会答申「新しい時代の義務教育を創造する」より

これらの条件をどこまで満たしているかを面接することによって評価します。

上記項目は暗記するくらいに覚えること。

そして、その内容を十分理解し、自分が実際にどういった部分で教師として適性なのかを自分のことばで語るように訓練しておきましょう。

②面接試験で評価されること

面接試験では、様々な項目が評価対象となるが、以下その代表的なものをあげます。

○人に接する際の基本的態度やマナー

- ・あいさつや言葉遣い、表情や動作など、人前できちんとした振る舞いができているか
- ・基本はいつも笑顔です
- ・清潔な服装（スーツ、靴、カバン）、髪型（ヘアカラーはNG）で臨んでいるか

○志望の動機、意欲や熱意

- ・教職を志した動機、教職への熱意を持っているか
- ・あこがれだけでなく、具体像があるか

○これまでの経験から学んだこと

- ・自分の経験から何かを学び、アピールできるものを持っているか
- ・「授業」「サークル」「ボランティア活動」「アルバイト」などの経験はこれからの教育活動にどう生かされるのか具体的に述べることができるか

○教育の話題に関する基本的な知識、理解

- ・質問の内容には、必ず学校教育に関するものがある。その知識を持っているか
- ・時事問題に精通しているか
- ・「児童生徒の問題行動等の調査」に係る数字を理解しているか
(いじめ、不登校等の最新の数字が答えられるか)

○与えられた質問を理解する力とそれに対する応答能力、表現力

- ・質問の内容をよく理解しているか
- ・質問に対して、自分の考えを導き出し、それを適切なことばで表現する力を持っているか

○物事に対する考え方

- ・教育活動を行うにあたって望ましい考え方をしてしているか
- ・バランス感覚のある人物かを判断される

③面接試験を受けるときの心得

面接試験の対策として、まず心得ておかなければならないのは、試験対策を何日間か行えばうまくいくというものではない、ということです。試験官に面と向かえば、その場限りの態度はすぐにわかってしまいます。そもそも試験官は、あれこれ質問することで、その場限りの態度ではないかということを見抜こうとしているのです。したがって、常日頃からの様々な人々に対する立ち居振る舞いを整えておく必要があります。

また、志望の動機や教育に関する質問への応答についても、直前に文章を丸暗記したのか、しっかりと自分のものになっているのかは、試験官、面接官が聞けばすぐにわかります。

自分の考えや意見を相手にわかりやすく、伝える力や相手の意図していることを的確にとらえて答える力をつけておきましょう。

それを踏まえたくうで、必要とされる対策を具体的にいくつか示してみます。

- 年上の人 正しい丁寧な話し方をはする大人 と話したり、公的な場で自分の意見を述べる機会を積極的に活用し、丁寧で適切な接し方や発言が自然にできるようにする
- 志望の動機について、学校生活や教育実習の体験と結びつけて教職への思いを述べるができるようにしておく
- 自分自身の大学生活が有意義であったとアピールできるように、積極的にクラブ活動やボランティア活動などに参加する
- 学校教育に関する質問に関して
 - ・最近の教育政策や教育事情を知るために、文部科学省の重要な答申をよく読み、理解しておく。これは、文部科学省のホームページにも掲載されています
 - ・最近の教育問題について、新聞を読んで教育関係の記事をスクラップしたり教育に関する特集番組などもチェックする

- ・生徒の指導の仕方について、自分だったら具体的場面でどのように対処するかをイメージする。このとき、法律で禁止されていること（たとえば体罰）や、答申や通達のなかで不適切だとされていることを知っておく

- ・複数人で教育の問題について自主的に討議を試みる

○情報誌等で、自分が受験する都道府県や市の出題傾向を把握しておく

④基本的な態度やマナー

- ・部屋に入る前にコートやマフラーは外しきちんとたたんで腕にかけるか、荷物置き場に置きます
- ・順番が来たら右手の中指の関節くらいで軽く3回ドアをノックします
- ・ドアを開け、その場で「失礼いたします」
- ・部屋に入り椅子の横に立ち、すすめられてから着席します
- ・カバンは足下に。決して机や椅子に置かないこと
- ・着席したら背筋を伸ばし顔をあげて印象をよく
- ・一度に二つの動作をしないこと（ドアを開けながらお辞儀をしたり、座りながらあいさつしたり、等）

○服装・髪型は、第一印象を大きく左右します

第一印象は、その後の面接官の評価に大きく関係しているため、清潔感のある、教育者としてふさわしい、誠実さが感じられるものにしましょう

- ・男子のネクタイは柄の派手でない紺色がおすすりめです
- ・女子はシャツのボタンはすべてとめ、スカート丈はひざがかくれるくらいが上品です
- ・男女ともヘアカラーは厳禁です。女子は前髪が目にかからないよう、地味なヘアピンでまとめます
- ・ピアスは厳禁ですが、穴が開いているのもおかしいので早めに対応しておきましょう

○はっきりと明るい口調で挨拶をする

- ・語尾が聞き取れないような小さな声では教員として教壇には立てません
- ・「たぶん」「と思います」といった表現は自信のなさや無責任さを感じます
- ・正解のない問いには「私は〇〇と考えます」とはっきり答えましょう

○座るときは男子の場合、手は軽く握って膝の上に置き、足は投げ出したりしない

女子は右手を下にして軽く両手を重ねます

○面接官に対して誠実に応答していることが分かるような視線のやり方を心がけましょう

- ・緊張してどうしても相手の目を見ることができない場合は、面接官のネクタイの結び目付近を見るようにして、極力視線を落とさないようにしましょう

○舌を出す、頭をかく、肩をすくめる、貧乏ゆすりなどの癖を出さないようにする

○全体としてけだるそうな印象を与えないようにする

- ・あなたが自分の子どもをどのような先生にあずけたいかを考えれば、どのような態度がふさわしいかイメージができます

⑤感じの良い応答

○面接官の質問をよく聞いて答える

- ・発言のはじめは必ず「はい」から

○あまり長く沈黙しない。質問が理解できないときは、その旨をはっきりと伝える

- ・聞き取りにくいとき、質問の主旨がわからないときは聞き直す方が誠実です

○相手に伝わるように、思いやりを持って丁寧に最後まで話す

- ・相手に伝わることを選びましょう。自分だけがわかっていることや専門用語、略した表現は相手に失礼です

○試験官や他の受験者の質問や話を途中で遮らない

- ・話は最後まで聞くこと。とくに、集団面接やディスカッションのときは他の人の話を最後まで聞くこと、そして否定や批判、評価を下すような言い回しは避けましょう

○自分の発言に自信を持つ

- ・ときには知らないことを問われることもあります。知らないことやわからないことに対しては「わたくしは、存じ上げません」「勉強不足で存じ上げませんでした」などと素に表現します
- ・信念や自分の考えは自信を持って大きな声で発言しましょう

(3) 言葉遣い

言葉遣いは使い慣れていなければ、急には上手くいきません。日頃からけじめあるコミュニケーションをとる癖をつけましょう。

また、俗に言う「バイト敬語」を使わないことが重要です。

(「〇〇になります」「～でよろしかったですか」など)

①自分のことは「わたし、わたくし」と言う。

- ・「自分」はNGです。

②語尾まではっきりと話す。

- ・あいさつも同様ですが、語尾まではっきりとゆっくりと話しましょう。
- ・語尾は「です」「ます」調です。

③敬語(丁寧語・尊敬語・謙譲語)を正しく使いましょう。

- ・「^{ちち}父」「^{はは}母」など身内は謙譲語です。

これらは、「個人面接」でも「集団面接」でも同様にできていなければならない内容です。日頃の習慣がものをいいます。

7. 集団討論

集団討論は、受験者が5～10人程度のグループに分かれ、教育課題や指導の在り方など、指定テーマについて議論するものです。リーダーシップや協調性など社会性やコミュニケーション能力を中心に評価されます。

ディベートのように勝ち負けを争うものではなく、グループで議論を行う中で、より良い合意形成を図ることが求められています。司会を決める場合と、自由な挙手で進める場合があります。

受験者全員が自己PRなどをした後、教育観や生徒指導などについての質問に対して順番に、あるいは挙手順で答えます。「ディスカッション形式」や「ディベート形式」がありますが、受験者同士で一つのテーマについて討論するものです。

自治体ごとに傾向の違いはありますが、多くの県で課されるテーマは生徒指導に関するもの、教育時事から「少子化対策」「不祥事対策」「地方創生」など様々です。

(1) 対策と準備

集団討論では、自分の考えをしっかりと表明した上で、他人の意見と接点を探ったり、全体の議論が発展するように、論点を整理したり、新たな視点を提供したりする役割が求められます。

その基本は、他人の意見をしっかりと聞くことです。話し手と同時に、聞き手（進行役も含む）の2つの役割を果たすことが求められます。場慣れが必要な部分が多いので、事前の練習が必要です。受験者5～8人に対し、面接官2～4人、時間は30～40分が一般的です。

- ①ここで評価することは「まわりの意見をしっかりと聞けるか」「自分の意見を適切なタイミングで挟み込むことができるか」といったコミュニケーション能力です。自分だけが長く話したり、他の受験者が発言しているときに別のことを考えていたり、自己中心的な対応をしていないかを評価します。
- ②教師としての主体性、主導力、構成力（ロジカルシンキング）、協調性が適性として身につけているかが問われます。司会やまとめ役などは立候補して積極性をアピールするのも一つの方法です。
- ③説得力のある話し方には「具体例」が盛り込まれています。単に「～だと思います」ではなく「○○なので○○だと思います」といった根拠の提示をしましょう。

8. 模擬授業（場面指導）

模擬授業はその場で与えられたテーマ、単元、で受験者が教壇で実際にどのようにふるまうかを評価します。ここで教育実習で習得した技術が発揮できます。

模擬授業は、授業の導入部分やホームルームの指導などを、5～15分前後の制限時間内で模擬演技する形で行われます。他の受験生や試験官が生徒役をつとめる自治体もあります。指導案を提出する自治体もあります。

場面指導は、生活指導や保護者対応などの場面对応をロールプレイング形式で実演します。多くの県市で演技後に指導の要点などについて、質疑応答があります。

（1）対策

対策のポイントは2つあります。1つは、模擬演技を明るく快活に行うことです。試験官は受験者が実際に教壇に立って子どもたちにどんな印象を与えるかを考えています。

暗い顔で教室に入ってくる先生の授業は楽しいはずがありません。大きな声で元気に授業をすることが基本です。

2つ目は、授業のねらいや計画、指導の手立てや評価の方法、指導の留意点などを明確にしておくことです。教材研究を深めて、自分らしい工夫を示すことができればさらに有効です。現場で指導的立場にあった先生に「魅力ある授業」のコツを習いましょう。

（2）評価の観点

- ①教科指導では授業のねらいが明確で一貫性のある授業か
- ②生徒が興味関心を持って授業に引き込まれるような導入ができるか
- ③話す声の「大きさ」「速さ」「トーン」は適切か
- ④板書の構成、筆順、大きさは適切か
- ⑤常に視線を生徒に向けて、下を向かずに発信できるか
- ⑥教師としての魅力や熱意が感じられるか

授業はコミュニケーションです。

教師が一人で話し続ける授業は生徒であった自分も退屈だったはずで。

あたかも、そこに30人の生徒がいるように、やりとりをしながら明るく、はつらつとした教師として授業をしましょう。

9. 「公立学校」と「私立学校」の違い

教師として仕事をしたいということが自分の進路選択であるならば、公立学校に限らず、私立学校に勤務することも考えられます。

公立学校は定期的に人事異動があり、同じ学校に6年以上勤務することはありません。その分、多くの学校を経験することができ、教員のコミュニケーションも広がります。定期的に教員研修を受ける義務がありますから高度な教育技術、スキルを高めてキャリアアップすることができます。また、私立学校は一般企業と同様に就職した学校で教員生活を送ることになります。自分の教師としてのスタイルや学校の教育方針など独自の教育ができます。

私立学校を受験する場合は一般企業の採用と同じように各校が「教科」「科目」を指定して独自に募集するところがほとんどです。

そのときに必要なのが「履歴書などのエントリーシート」「大学からの推薦状」「小論文(作文)」です。これは、面接などの二次試験の参考にするため、面接重視であることも意識しておきましょう。

また、私立学校では「私学教員適性検査」を受け、その結果を使いながら各学校を受験するのが一般的です。これは私立学校教員のためのセンター試験のようなもので、教職教養と専門教養についてA～Dの評価がつき、評価が高いほど採用される率が高くなります。詳しくは各県の「私学協会」で検索し、問い合わせで情報を得ましょう。

おわりに

「アクティブラーニング」は学校教育の中で当たり前になりました。

しかし、その意味を「グループ学習」や「話し合い学習」と勘違いしている人もいます。

アクティブになるのは一人一人の脳みそのことです。講義形式に着席していても教師の力量で子どもが「能動的」に学習することを「アクティブラーニング」といいます。

それは教師として授業をする人間にとってはごく当たり前のことで、逆にそうでない授業などあり得ないので

す。

人はどの学校へ行ったか、どの大学で学んだか、ではなく「だれと出会ったか」が人生を大きく左右します。あの人との出会いが今の自分をつくった、と思うことはありませんか？

アメリカの研究によると18歳の時に「就きたいと思った職業」に今も就いている人はたったの2%だといいます。

「学校の先生になりたい」と考えたのは小学校4年生の時でした。

当時の音楽の先生が、銀座ソニービルで開催される「Beethoven展」のチケットをくださったのです。母と一緒にBeethovenの生涯や、それにまつわる実物の楽譜、楽器が展示されている会場で、子どもながらに鳥肌が立つほどの感動を覚えたのがきっかけです。

中学・高校と進み、そろそろ進路決定をする時期となりました。

三者面談の後、「音楽の教師になりたい。だから、教員免許がとれる大学を受験したい」と両親に頼みました。

決して豊かな家庭ではないし、3歳下の弟の受験も重なり、父親から出された条件は「大学に行くのは良いが、私立には通わせることはできないので、国立大学であること。家から1時間以内で通えるところであること」でした。そして、私は条件に合う、唯一の大学を受験することになりました。

ところが、音楽科を受験するためには5教科の試験はもちろんのこと、ピアノ、声楽、和声(聴音)などのレベルの高い実技試験があるということを深く考えていなかったのです。それまで、本格的にピアノを習っていない

かった私にはそうとうの練習量が必要でした。

しかし、弟の高校受験があるため、家では思うようにピアノの練習ができません。

毎日、部活動が終わった後の、体育館のステージの上にあるピアノで夜遅くまで練習をしました。時には寒さでかじかむ指と爪の間から血がにじんできました。

普通のサラリーマン家庭であるわが家で、高額なピアノレッスン料もかなり親に負担をかけたのでは、と思います。

受験勉強と、部活動と、ピアノの練習の両立はかなりハードでしたが、晴れて、大学にも現役合格し、教員採用試験も1回で突破し、横浜市の公立中学校の教員となりました。

その後多くの学校現場を経験し、教育行政にも長く関わり、今は全国の教職員の研修などで現実の教育課題を目の当たりにしています。実際の教育現場には、情熱だけでは太刀打ちできない厳しい場面もたくさんあります。

しかし、その情熱がなければ、子どもたちの未来をつくっていくことはできません。

「先生になりたい」と心の底から願うのであれば「自己実現」に向かって、情熱を持ちつつ着実に実力をつけて採用試験に臨みましょう。

第一歩を踏み出し、本来の自分の力を最大限に生かすのは、あなた自身です。

「先生に出会ったから…」と子どもたちに人生の素晴らしさを感じさせるようなステキな「先生」になってください。

